

5 戦略

Hondaのサステナビリティ	18
持続的な成長のために	19
2030年ビジョン	20
マテリアリティ分析	21
Hondaの取り組みとSDGs	22
サステナビリティマネジメント体制	25
■ ステークホルダーエンゲージメント	26
研究開発	30
イノベーションマネジメント	31

ステークホルダーエンゲージメント

基本的な考え方

Honda が社会から「存在を期待される企業」となるためには、コミュニケーション・サイクルを実践していくことが必要です。それは、① Honda がどのような価値を社会に提供しようとしているのかを適宜・的確に伝え、②多様なステークホルダーの Honda に対する要請や期待を把握・理解し、③具体的な施策に落とし込み、④その評価を受ける、という仕組みです。

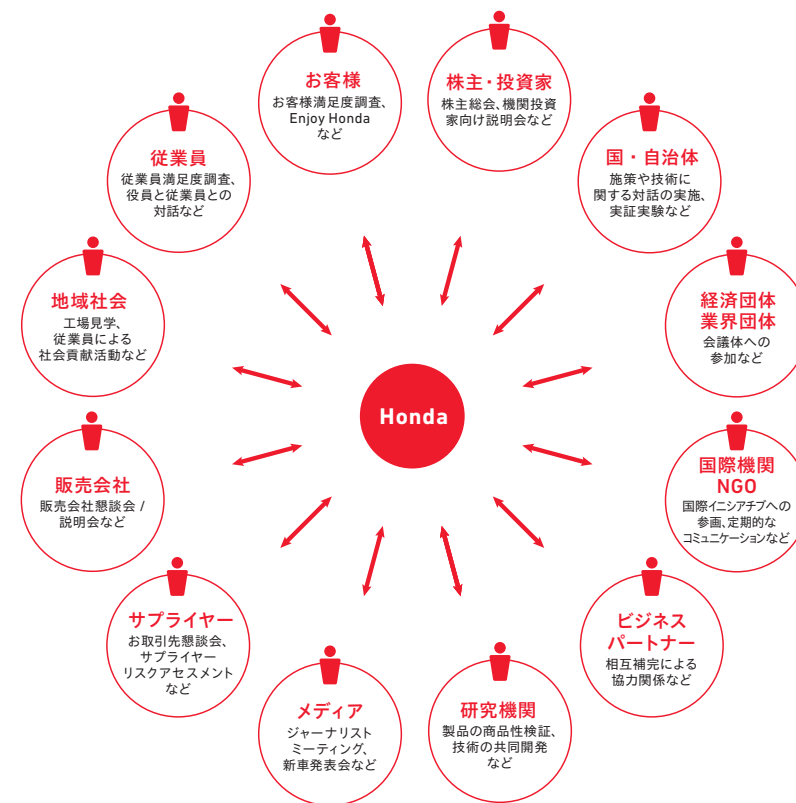
とりわけ近年は、事業の規模拡大やグローバル化に加え、ITの急速な普及によって、企業活動が社会に及ぼす、また社会が企業に及ぼす影響の大きさと範囲が広がっており、そのスピードも加速しています。そんななか、「ステークホルダーとの対話」は、Honda の取り組みに対するより正しい理解につながるとともに、社会環境の変化やリスクを把握できる有益な手段でもあると考えています。

こうした認識のもと、Honda はグローバルで、さまざまな機会を通じて対話を実施しています。この対話は、Honda のステークホルダーのなかでも、右図の主要なステークホルダー（Honda の事業活動により影響を受ける、もしくはその行動が事業活動に影響を与えるもの）と、社内各部門との間で進めています。

例えば、株主・投資家とのエンゲージメントでは、シェアホルダー（株主）リレーションズと、インベスター（投資家）リレーションズを通じて、Honda をより正しく理解してもらえよう対話を行っています。

また、代表的な ESG 評価機関や NGO との対話から得られた意見を「マテリアリティ分析」（⇒ p.21）に反映させ、Honda が取り組むべき課題の特定に役立てています。

ステークホルダーエンゲージメント



5 戦略

ステークホルダーエンゲージメント

Hondaのサステナビリティ 18

持続的な成長のために 19

2030年ビジョン 20

マテリアリティ分析 21

Hondaの取り組みとSDGs 22

サステナビリティマネジメント体制 25

— ステークホルダーエンゲージメント 26

研究開発 30

イノベーションマネジメント 31

2020年度における取り組み例

ステークホルダー	主な対話方法	概要	頻度	対応するマテリアリティマトリックス項目	窓口	参照
お客様	お客様満足度調査	世界中の顧客の満足のため、全世界の各販売店でアフターサービスを受けたお客様に対し、顧客満足度についての調査を実施し、質の高いサービスオペレーション実施の改善活動を行っています。	毎年	ブランドマネジメントの強化	顧客担当部門	⇒ p.101
株主・投資家	決算説明会	決算概況、取り組みなどについて、記者会見、電話会議を開催しています。得られたご意見、ご要望を参考に企業価値の最大化に取り組んでいます。	年4回		財務部門	https://www.honda.co.jp/investors/
	個別説明・カンファレンス参加	経営状況、生産、研究開発、事業戦略の説明や、意見交換を実施しています。得られたご意見、ご要望を参考に企業価値の最大化に取り組んでいます。	通年			
サプライヤー	お取引先懇談会	サプライヤーと事業の方向性や取り組み内容を共有する懇談会を、定期的に開催しています。全社方針や購買方針の発信とQCDD [※] などの各領域において、特に優れた実績を残されたサプライヤーに対し、感謝賞を贈呈しています。懇談会終了後には、出席者に対しアンケートを実施し、満足度や次回イベントに活かすための改善点の把握を行い、さらなる充実に向けた活動を行っています。	毎年	製品品質の向上 サプライチェーン全体へのサステナビリティ活動の展開	購買部門	⇒ p.145
	事業計画懇談会・事業状況共有会	中長期経営方針、事業計画、サステナビリティ案件（ESG/コンプライアンス・ガバナンス/リスクアセスメント）に関する情報を共有します。	毎年	製品品質の向上 サプライチェーン全体へのサステナビリティ活動の展開		
	サプライヤーへのESG調査の実施	「Hondaサプライヤーサステナビリティガイドライン」（⇒p.139）に基づき、コンプライアンス違反等の未然防止、環境負荷低減実現のため、主要サプライヤーへのESG調査を実施しています。	毎年	サプライチェーン全体へのサステナビリティ活動の展開 ガバナンスの強化		⇒ p.143
経済団体・業界団体	業界団体活動への参画	業界団体活動を通じて社会の期待・要請を把握し、持続可能な事業環境を整え社会に貢献すべく、各種会議体に参加しています。	通年		渉外部門、他	
国際機関・NGO	国際イニシアチブへの参画	持続可能な社会の実現に向けた、期待・要請の把握と貢献をめざし、各種会議体に参加しています。	通年		サステナビリティ企画部門、他	
地域社会	安全運転普及活動	Hondaは、世界42の国と地域で活動を実施しています。具体的には、二輪・四輪の販売店での安全運転指導をはじめ、運転シミュレーターや、実車を使った専用のコースでの参加体験型の安全教育を行っています。また、運転シミュレーターの開発も行っています。さらに日本においては、運転者だけでなく歩行者や自転車利用者を対象に、各都道府県や地域の交通安全指導者と連携して、教育プログラムの開発も進めています。	通年	交通事故死者数の大幅削減	安全運転普及担当部門	⇒ p.81
	お身体の不自由な方々の運転復帰	日本では運転復帰を望む方々の支援のため、教習指導員・作業療法士の方々とともに、地域連携を実現するための環境整備をサポートしています。	通年	モビリティバйдの解消		⇒ p.84
	The Power of Teen（ザ・パワー・オブ・ティーン）	新型コロナウイルス禍という不透明な時代でも「夢」を持つことの大切さを伝え、「夢」の実現をあと押ししようと、夢へのチャレンジを続けるHonda関係者によるオンライン授業「シェア夢授業」を配信しました。他企業や教育関係の方々から力添えを得て10代の「夢」を募集し、選ばれた代表者によるオンライン「シェア夢発表会」を実施しました。		多様性の拡大と人材の育成	社会貢献活動推進部門	⇒ p.150
国・自治体	新型コロナウイルス感染症防止に向けた支援活動	世界のさまざまな地域において、直面した新型コロナウイルスによる課題・問題に対し、感染拡大を防ぐためにわれわれHondaができることを考え、支援活動を行いました。			社会貢献活動推進部門、他	⇒ p.149
従業員	意識調査	より働きやすい職場環境づくりのため、従業員の意識調査や活性化測定を行っています。	意識調査：3年毎 活性化測定：毎年	多様性の拡大と人材の育成	人事部門	⇒ p.124

※ QCDD[※]：Quality（品質）、Cost（コスト）、Delivery（調達）、Development（開発）、Environment（環境）の略。

5 戦略

Hondaのサステナビリティ	18
持続的な成長のために	19
2030年ビジョン	20
マテリアリティ分析	21
Hondaの取り組みとSDGs	22
サステナビリティマネジメント体制	25
— ステークホルダーエンゲージメント	26
研究開発	30
イノベーションマネジメント	31

ステークホルダーエンゲージメント

外部団体との協働

Honda は、グローバルなモビリティカンパニーとしての責任を果たしていくために、政府をはじめ経済団体や業界団体との対話を推進するとともに、外部団体との協働を行っています。日本においては、一般社団法人日本自動車工業会の副会長職、理事、委員会委員長職、委員、公益社団法人自動車技術会の理事、東京商工会議所の副会頭職を引き受けています。

また、IMMA※¹ や OICA※² といった二輪車、四輪車の国際団体においても、委員会、作業部会の議長を各業界団体の代表として務めています。さらに WEF※³ や、WBCSD※⁴ への加盟を通じて、サステナビリティに関するイニシアチブとも協力しています。

なお、Honda の各地域における事業執行にあたっては、各地域が自立性を高め、迅速な意思決定を行うため、一定の範囲内で権限を委譲しています。政治献金を行う場合は、各国の法令に基づき、社内の必要な手続きを経て行っています。

※1 IMMA : International Motorcycle Manufacturers Association (国際二輪車工業会) の略。

※2 OICA : Organisation Internationale des Constructeurs d'Automobiles (国際自動車工業連合会) の略。

※3 WEF : World Economic Forum (世界経済フォーラム) の略。

※4 WBCSD : World Business Council for Sustainable Development (持続可能な開発のための世界経済人会議) の略。

5 戦略

Hondaのサステナビリティ	18
持続的な成長のために	19
2030年ビジョン	20
マテリアリティ分析	21
Hondaの取り組みとSDGs	22
サステナビリティマネジメント体制	25
— ステークホルダーエンゲージメント	26
研究開発	30
イノベーションマネジメント	31

ステークホルダーエンゲージメント

外部評価

企業の持続可能性の指標

「Dow Jones Sustainability World Index」の構成銘柄に選定

2020年11月、Hondaは社会的責任投資の代表的な指標であるDJSI※1の評価において、全世界における自動車セクターの上位4社に入り、「Dow Jones Sustainability World Index」の構成銘柄に4年連続で選定されました。また同時に、アジア・太平洋地域の「Dow Jones Sustainability Asia/Pacific Index」の構成銘柄に6年連続で選ばれています。

DJSIは、米国のS&P Global社によって運営されている投資指標です。経済・環境・社会の3つの側面から世界の主要上場企業のサステナビリティを評価し、総合的に優れた企業を構成銘柄として選定しています。

Member of

Dow Jones
Sustainability Indices

Powered by the S&P Global CSA

S&P Global 社によるサステナビリティ評価にて
「Silver Class」に選定

HondaはS&P Global社によるサステナビリティ企業評価「Sustainability Award 2021」において、「Automobiles」セクターで「Silver Class」を獲得しました。S&P Global社は経済・環境・社会の側面から、世界約7,000の企業のサステナビリティ評価を行い、毎年、各セクターの評価上位企業を「Gold Class」「Silver Class」「Bronze Class」として発表しています。

Sustainability Award

Silver Class 2021

S&P Global

「CDP Japan 500 Climate Change Report 2020」において
「A-」を獲得

2020年12月、CDPは、世界の大手企業を対象に実施した、各企業の気候変動対策やGHG※2排出量削減への取り組みの調査結果を発表しました。

Hondaは、そのなかの1カテゴリーである「CDP Japan 500 Climate Change Report 2020」にて、「A-」を獲得しました。

CDPは、企業や都市の重要な環境情報を測定・開示・管理し、共有するためのグローバルなシステムを提供する国際的な非営利団体です。企業の環境問題への取り組みレベルを「情報開示」「認識」「マネジメント」「リーダーシップ」の4段階で評価しています。

CDP評価指標である気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD※3)で要求されている項目については、パフォーマンス報告の環境(⇒p.51)をご参照ください。

※1 DJSI: Dow Jones Sustainability Indices (ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス)の略。

※2 GHG: Greenhouse Gas (温室効果ガス)の略。

※3 TCFD: The FSB Task Force on Climate-related Financial Disclosuresの略。